

# 次世代知的財産戦略: Gemini 3 Pro、Nano Banana ProおよびGemini Nanoを用いた商標実務の変革と実装ロードマップ

## Gemini 3 pro

### 第1章 序論: 商標実務における「推論」と「創造」の融合

知的財産権、とりわけ商標の領域は、長らく人間の専門的知見と経験則が支配する世界であった。弁理士や商標調査員は、膨大なデータベースの中から類似する商標を抽出し、過去の審決例や裁判例に基づいて登録可能性を判断してきた。しかし、2025年後半にGoogleが投入した一連の生成AIモデル、すなわち高度な推論能力を持つ「Gemini 3 Pro」、視覚的創造と解析に特化した「Nano Banana Pro (Gemini 3 Pro Image)」、そしてオンデバイスで機密性を担保する「Gemini Nano」の登場は、この伝統的な実務プロセスを根本から覆す可能性を秘めている<sup>1</sup>。

本レポートは、これらの最先端AIモデルを商標実務の各フェーズ(調査、出願、中間処理、管理、活用)にどのように統合すべきか、その具体的な方法論と戦略的意義を包括的に論じるものである。単なる業務効率化の道具としてではなく、法的推論(Legal Reasoning)の質を高め、ブランド創造(Brand Creation)のプロセスを革新するためのパートナーとしてAIを位置づける新たなパラダイムを提示する。

#### 1.1 商標実務が直面する現代的課題とAIへの期待

現代の商標実務は、デジタル経済の加速に伴う出願件数の爆発的な増加と、ブランド形態の多様化という二重の圧力に晒されている。世界知的所有権機関(WIPO)や各国特許庁のデータによれば、商標出願件数は年々増加傾向にあり、審査の遅延や質の維持が課題となっている<sup>4</sup>。また、従来の文字商標や図形商標に加え、ホログラム、動き、色彩、音といった「新しいタイプの商標」の重要性が増しており、これらを的確に検索・比較するためのマルチモーダルな解析能力が求められている。

さらに、商標の類否判断における「観念類似」や「取引の実情」といった要素は、文脈依存性が高く、従来のキーワード検索や単純な画像マッチング技術では捉えきれない領域であった。ここで期待されるのが、Gemini 3 Proに代表される「推論型AI」である。これらは単にデータを検索するのではなく、法的な三段論法を模倣し、複雑な文脈を理解した上で結論を導き出す能力を有している<sup>2</sup>。

#### 1.2 Google新モデル群の技術的特性と商標分野への適合性

本稿で取り上げる3つのモデルは、それぞれ異なる特性を持ち、商標実務の異なる局面に適合する。

第一に、Gemini 3 Proは、Googleのフラッグシップモデルとして「Deep Think(深層思考)」機能を搭載している点が最大の特徴である<sup>6</sup>。これは、複雑な問い合わせに対して即座に回答するのではなく、内部

的に思考プロセス(Chain of Thought)を経て、論理的な整合性を検証しながら回答を生成する機能である<sup>7</sup>。商標法における「混同のおそれ」の判断や、拒絶理由通知に対する反論の論理構築において、この推論能力は弁理士の思考を強力に補完する。

第二に、**Nano Banana Pro**(正式名称:Gemini 3 Pro Image)は、画像生成と編集に特化したモデルであり、特に「テキストレンダリング」の精度と「参照画像の一貫性維持」において前世代を凌駕している<sup>9</sup>。これは、ロゴ商標の創作や、侵害被疑物品の画像解析、さらには指定商品の概念図作成において革命的な変化をもたらす。

第三に、**Gemini Nano**は、Androidデバイス(Pixelシリーズ等)上で動作する軽量モデルであり、クラウドにデータを送信せずに推論を実行できる<sup>3</sup>。これは、未公開のブランドネームや新製品情報といった極めて機密性の高い情報を扱う商標実務において、セキュリティと利便性を両立させるための鍵となる技術である。

---

## 第2章 Gemini 3 Proによる法的推論の深化とクリアランス調査の革新

### 2.1 意味論的(セマンティック)クリアランス調査の構築

商標調査の核心は、先行商標との「類似性」を発見することにある。商標法上、類似性は「外観」「称呼」「観念」の三要素から総合的に判断されるが、従来の調査ツールは「外観(画像マッチング)」と「称呼(文字列の一致)」には対応できても、「観念(意味内容)」の類似検知には限界があった。Gemini 3 Proは、この「観念類似」の壁を突破する。

#### 2.1.1 概念抽出と多次元的類似性解析

Gemini 3 Proの高度な言語理解能力を用いることで、調査対象商標から想起される「概念」を多角的に抽出することが可能となる。例えば、「BLUE OCEAN」という商標からは、「青い海」という直接的な意味だけでなく、「未開拓市場」「広大さ」「自由」「ビジネス戦略」といった抽象的な概念や連想が抽出される。

従来のデータベース検索では、「BLUE OCEAN」に対して「BLUE SEA」は類似として検出できても、「AZURE EXPANSE(紺碧の広がり)」のような、単語は異なるが類似した心証を与える商標を漏らすリスクがあった。Gemini 3 Proは、これらの語句をベクトル空間上で近い位置にある概念として認識し、言語や表現形式を超えた「観念類似」のリスクを提示する<sup>12</sup>。これは、特に造語やメタファーを用いたブランド名の調査において、予見可能性を飛躍的に高めるものである。

#### 2.1.2 取引の実情を加味した「Deep Think」リスク評価

商標の類否は、商品や役務の性質、取引の形態、需要者の注意力を考慮して判断される(商標法第4条第1項第11号等)。Gemini 3 Proの「Deep Think」モードは、この「取引の実情」という変数を推論プロセスに組み込むことができる<sup>5</sup>。

具体的には、以下のようなプロンプトエンジニアリングと推論フローを構築する。

1. 事実の定義: 本願商標と引用商標、それぞれの指定商品・役務を定義する。
2. 需要者の特定: 一般消費者か、専門家(医師、エンジニア等)か、あるいはその両方かを特定する。
3. 注意力の推定: 安価な日用品であれば注意力が散漫になりやすく、高価な精密機械であれば注意深く検討されるという前提を設定する。
4. 混同のシナリオ生成: Gemini 3 Proに対し、「もしこれら2つの商標が同一の売場に並んだ場合、どのような誤認が生じうるか」という思考実験を行わせる。

例えば、医薬品分野において「VANTAGE」と「VINTAGE」という商標が競合した場合、Deep Think モードは「綴りは一字違いであり外観・称呼は類似するが、前者は『優越』、後者は『年代物』という明確に異なる観念を持つ。医師や薬剤師という専門家であればこの観念の差異を認識できるため、誤処方のリスクは低い」といった、判例法理に沿った詳細なリスク評価を出力することが期待できる<sup>13</sup>。

## 2.2 拒絶理由通知への対応(Office Action Response)の自動化

商標出願プロセスにおいて、特許庁からの拒絶理由通知(Office Action)への対応は、弁理士の能力が最も問われる場面である。Gemini 3 Proは、この高度な知的作業をサポートする「アソシエイト弁理士」としての役割を果たす。

### 2.2.1 判例・審決データのRAG統合

Gemini 3 Proは100万トークン以上のコンテキストウインドウを持つため<sup>15</sup>、過去数十年分の拒絶査定不服審判の審決例や、類似事案の審査基準を一度に読み込ませることが可能である。これをRAG(Retrieval-Augmented Generation)システムと組み合わせることで、特定の拒絶理由(例えば、記述的商標に該当するという3条1項3号の拒絶)に対して、過去に登録が認められた類似の事例を検索し、その論理構成を抽出して意見書の骨子を作成する。

特に、Gemini 3 Proの推論能力は、単なる判例の引用にとどまらず、「本件商標と判例Xの商標は、〇〇という点で共通しており、判例Xで識別力が認められた論理は本件にも適用可能である」という法的な類推適用(Analogy)を構成する点で優れている<sup>16</sup>。

### 2.2.2 3条2項(使用による識別力)の立証支援

長期間の使用により商標が著名になったことを主張して登録を目指す場合(商標法第3条第2項)、膨大な使用証拠(請求書、カタログ、広告、売上データ)を提出し、その周知性を立証する必要がある。

Gemini 3 Proのマルチモーダル解析能力は、スキャンされた大量のPDF資料から、「いつ」「どこで」「どのような態様で」商標が使用されたかを自動的に抽出し、時系列リストや地域別の使用状況マップを生成する<sup>14</sup>。さらに、需要者アンケートの結果を分析し、ブランドの認知度が「単なる名前の認知」にとどまらず、「特定の出所を表示するものとしての認知」に達しているかどうかを統計的かつ定性的に評価するレポートを作成する。

---

## 第3章 Nano Banana Proによるブランド・アイデンティティの視覚的創造と保護

### 3.1 「Nano Banana Pro」の革新的画像生成能力

Googleが2025年にリリースした「Nano Banana Pro」(Gemini 3 Pro Image)は、商標やブランディングの実務において、これまでの画像生成AIが抱えていた致命的な弱点を克服している<sup>2</sup>。

#### 3.1.1 テキストレンダリングとロゴ・プロトタイピング

従来の画像生成モデル(MidjourneyやDALL-E 3の初期バージョン等)は、画像内に正確な文字を描画することに苦戦し、しばしば「謎の文字(Gibberish)」を生成していた<sup>19</sup>。しかし、Nano Banana Proは、プロンプトで指定したブランド名やスローガンを、正確なスペルと適切なフォントデザインで画像内にレンダリングする能力を有している<sup>9</sup>。

これにより、商標実務家やデザイナーは、クライアントとの打ち合わせの場で、「ブランド名を含んだロゴのバリエーション」を即座に生成し、視覚的なフィードバックループを回すことが可能になった。例えば、「『Solaris』という文字を含み、太陽と葉をモチーフにした、環境技術企業のミニマルなロゴ」という指示に対し、数秒で実用レベルのロゴ案を複数提示できる。これは、商標出願前の「ネーミングとロゴの同時検討」を加速させ、早期の権利化判断を支援する。

#### 3.1.2 参照画像の一貫性とブランド・フィデリティ

Nano Banana Proは、最大14枚の参照画像を読み込み、そのスタイルやキャラクターの一貫性を維持したまま新しい画像を生成する機能を備えている<sup>20</sup>。これは「Style Transfer」や「Subject Consistency」と呼ばれる技術であり、既存のブランド資産を持つ企業にとって極めて重要である。

例えば、既に登録されているキャラクター商標がある場合、そのキャラクターの同一性を保持したまま、異なるポーズやシチュエーション(例:スポーツをしている姿、季節の挨拶をしている姿)の画像を生成し、それらを防衛標章として追加出願するための素材を作成できる。これにより、ブランドの世界観を崩すことなく、権利範囲を重層的に拡張する戦略が容易になる。

### 3.2 図形商標調査の高度化と類似性ヒートマップ

Nano Banana Proの画像理解(Vision)機能は、図形商標のクリアランス調査にも革命をもたらす。

#### 3.2.1 視覚的構成要素の言語化と検索

調査対象のロゴ画像をNano Banana Proに入力し、その構成要素を詳細に言語化させる( Image-to-Text)。「翼を広げた鷲」「王冠」「盾」「赤と金の配色」といった記述的要素に加え、「威厳」「伝統」「スピード感」といった抽象的な印象も抽出する。このテキストデータを検索クエリとして用いることで、外観は異なっていても観念的に共通する図形商標を網羅的に検索することが可能となる<sup>4</sup>。

### 3.2.2 類似度判定とヒートマップ可視化

Nano Banana Proは、2つの画像を比較し、その類似度を数値化するだけでなく、視覚的にどこが似ているかをヒートマップとして表示することができる（技術的にはAttention Mapの応用などが考えられる）<sup>21</sup>。これにより、侵害訴訟や警告書の作成において、「被告のロゴのこの曲線部分は、原告の登録商標の主要部と酷似しており、視覚的な重心が一致している」といった客観的な証拠資料を作成することができる。

## 3.3 生成AIと著作権・商標権のリスク管理

Nano Banana Proを活用する上で避けて通れないのが、生成された画像の権利関係である。現在の主要な法域（米国、日本、EU等）では、AIが自律的に生成した画像には著作権が発生しないとする見解が主流である<sup>23</sup>。したがって、Nano Banana Proで生成したロゴを独占的に使用するためには、著作権法ではなく「商標法」による保護（商標登録）が必須となる。商標権は創作性の有無にかかわらず、使用による信用蓄積を保護法益とするため、AI生成物であっても登録要件を満たせば保護される<sup>25</sup>。

また、Nano Banana Proは、生成画像に不可視の透かし（SynthID）を埋め込む機能を備えており、これにより画像の真正性やAI生成であることを証明できる<sup>26</sup>。さらに、Google WorkspaceやVertex AIの有償版を利用する場合、Googleは生成物が第三者の知的財産権を侵害した場合の補償（Indemnification）を提供しているため、企業ユーザーは安心して商用利用（商標出願含む）を行うことができる<sup>26</sup>。

---

## 第4章 Gemini NanoによるオンデバイスAIと機密保持の確立

### 4.1 商標実務における「秘密」の価値とクラウドのリスク

商標実務、特に新しいブランドのネーミングや出願前の戦略立案において、情報の機密性は生命線である。もし出願前に情報が漏洩すれば、第三者による冒認出願（抜け駆け出願）を招き、クライアントのビジネスに壊滅的な打撃を与える可能性がある。

従来のクラウドベースのAIツールは、利便性が高い反面、入力データがサーバーに送信され、場合によってはAIの再学習に利用されるリスク（またはそのように疑われるリスク）が完全には払拭できず、保守的な法務部門や法律事務所での導入を阻む要因となっていた<sup>28</sup>。

### 4.2 PixelデバイスとGemini Nanoによるローカル処理の実装

GoogleのPixel 8/9シリーズ等に搭載された「Gemini Nano」は、このジレンマを解消する。Gemini Nanoは、Android OSのシステムコア（AI Core）上で動作し、インターネット接続なしにテキスト処理や要約、簡易的な推論を実行できる<sup>3</sup>。

#### 4.2.1 オフライン・ネーミング会議の実現

法律事務所の会議室や、クライアントとの対面ミーティングにおいて、通信を遮断したタブレット端末上でGemini Nanoを使用する。その場で出された数百のネーミング案に対し、Gemini Nanoが即座に「発音のしやすさ」「ネガティブな意味の有無（多言語対応）」「既存の著名ブランドとの簡易的な類

似チェック」を行い、スコアリングする。全てのデータは端末のRAMとストレージ内でのみ処理され、Googleのサーバーを含め外部には一切送信されないため、最高レベルの機密性が担保される。

#### 4.2.2 機密文書のオンデバイス要約と抽出

M&Aのデューデリジェンス(DD)やライセンス契約のレビューにおいて、大量の契約書や商標公報を読み込む必要がある場合、Gemini Nanoを活用して、重要な条項(権利の帰属、存続期間、テリトリー制限など)を抽出・要約させる<sup>28</sup>。クラウド上のLLMを使用する場合、契約書データをアップロードすること自体が契約違反(第三者開示)になるリスクがあるが、オンデバイスAIであれば「自社のPC内で読む」のと同義であり、リーガルテックのコンプライアンス基準を満たしやすい。

---

## 第5章 国際的な知財エコシステムとの整合性と展望

### 5.1 各国特許庁(JPO, USPTO, EPO)のAI導入動向

AIによる商標実務の変革は、ユーザー側だけでなく、審査を行う特許庁側でも急速に進んでいる。

- 日本特許庁(**JPO**): 2023年より審査官向けにAIベースの画像検索ツールを導入しており、2025年以降はさらにその精度と適用範囲(類似群コードの推論等)を拡大する計画である<sup>30</sup>。これは、出願人側も同等以上の性能を持つAI(Nano Banana Pro等)で事前調査を行わなければ、審査結果を予見できなくなることを意味する。
- 米国特許商標庁(**USPTO**): 2025年10月にAIを用いた先行技術・商標検索のパイロットプログラムを開始し、AIツールの活用に関するガイダンスを頻繁に更新している<sup>32</sup>。特に、AIを「発明者」や「著作者」として認めるかという点については慎重な姿勢を崩していないが、AIを「ツール」として利用すること自体は推奨している。
- 欧州特許庁(**EPO**)とWIPO: EPOやWIPOも、Nice分類の自動化や画像検索ツール(WIPO Global Brand DatabaseのImage Search)にAIを導入している<sup>34</sup>。Gemini 3 Proを用いた出願書類作成においては、これらの国際機関が採用しているデータ形式や分類基準と整合性を取ることが重要である。

### 5.2 WIPO等における生成的AIと商標分類のガイドライン

WIPOは、生成AIが作成した指定商品リストとNice分類の整合性について議論を進めている<sup>36</sup>。Gemini 3 Pro等のAIは、時に実在しない商品名や、分類があいまいな用語を生成する可能性がある(ハルシネーション)。そのため、AIが提案した指定商品・役務については、必ず「Madrid Goods & Services Manager」等の公式データベースと照合し、Nice分類上の位置づけを確認するプロセスが不可欠となる。2025年時点では、AIの出力をそのまま出願書類に転記することは推奨されず、必ず人間の専門家による検証(Human-in-the-loop)が求められる<sup>32</sup>。

---

## 第6章 権利行使(Enforcement)と監視業務の自動化

## 6.1 マルチモーダル監視による模倣品対策

ECサイト(Amazon, Alibaba等)やSNS(Instagram, TikTok)上には、日々大量の模倣品や商標権侵害コンテンツがアップロードされている。これらを人力で監視することは不可能に近い。

Gemini 3 ProとNano Banana Proを組み合わせた監視システムは、以下のプロセスで侵害検知を自動化する。

プロセス	使用モデル	機能詳細
1. 収集	クローラー	各プラットフォームから画像とテキストデータを収集。
2. 解析	<b>Nano Banana Pro</b>	画像内のロゴ、商品形状、パッケージデザインを解析。ロゴが一部隠れたり、変形していたりしても、ブランドの特徴量と比較して同一性を判定する <sup>39</sup> 。
3. 文脈理解	<b>Gemini 3 Pro</b>	キャプション、ハッシュタグ、価格、ユーザーコメントを読み込み、「販売目的か」「パロディか」「真正品の中古販売か」を推論する <sup>5</sup> 。
4. 判定	<b>Gemini 3 Pro (Deep Think)</b>	商標権侵害の要件(業としての使用、類似性、混同のおそれ)を満たすかを判定し、リスクスコアを算出する。

## 6.2 警告書の自動生成とトーンの最適化

侵害が検知された場合、Gemini 3 Proはその侵害の性質(悪意のある大規模業者か、知識不足の個人か)に応じて、適切なトーンの警告書(Cease and Desist Letter)をドラフトする。

大規模業者に対しては、法的根拠と損害賠償請求を示唆する厳格な文面を生成し、個人に対しては、商標権の重要性を説き、削除を促す教育的な文面を生成する。これにより、ブランドの評判(Reputation)を守りつつ、実効性のある権利行使が可能となる。

---

## 第7章 実装ロードマップと結論

### 7.1 段階的導入プラン

企業や法律事務所がこれらの技術を導入するためのロードマップを以下に提案する。

1. フェーズ1:オンデバイス&サンドボックス(現在～6ヶ月)
  - **Gemini Nano**搭載デバイスを導入し、オフライン環境でのネーミング検討や会議録作成に利用する。
  - **Google AI Studio**等のサンドボックス環境で、Gemini 3 Proの「Deep Think」モードを用いた判例分析や拒絶理由対応のプロンプトエンジニアリングを検証する。この段階では機密データは使用しない。
2. フェーズ2:セキュア・クラウド統合(6ヶ月～1年)
  - **Vertex AI**上に専用のテナントを構築し、過去の自社出願データや意見書を学習(またはRAG化)させる。Googleの「Generative AI Indemnification」の適用条件を満たす設定を行い、著作権リスクをヘッジする<sup>27</sup>。
  - **Nano Banana Pro**を用いた社内ロゴコンペや、ブランディング資料の作成を試験運用する。
3. フェーズ3:ワークフローの完全自動化(1年以降)
  - 商標調査から出願書類作成、監視業務までをAPIで連携させ、人間が最終判断のみを行う「エージェント型ワークフロー」を確立する。

## 7.2 結論: AIは「代行者」ではなく「拡張者」

Gemini 3 ProやNano Banana Proは、商標実務における「作業」を劇的に削減するが、最終的な「判断」と「責任」は人間に残る。特に、Deep Thinkモードが提示する推論はあくまで確率的な予測であり、裁判所の判断を保証するものではない。

しかし、これらのツールを使いこなすことで、知財専門家は「類似商標を探す」という単純作業から解放され、「ブランドの価値をどう定義し、どう守り、どう育てるか」という本質的な戦略業務に注力できるようになる。Geminiシリーズは、商標実務を「管理(Administration)」から「戦略(Strategy)」へと昇華させるための最強のエンジンである。

知財プロフェッショナルには、今こそAIのリスクと可能性を正しく理解し、自らの業務プロセスを再定義する勇気が求められている。

## 引用文献

1. Gemini 3 Pro | Generative AI on Vertex AI - Google Cloud Documentation, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://docs.cloud.google.com/vertex-ai/generative-ai/docs/models/gemini/3-pro>
2. Google is rolling out Gemini 3 and Nano Banana in Search: What it means for users, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/google-is-rolling-out-gemini-3-and-nano-banana-in-search-what-it-means-for-users/articleshow/125746529.cms>
3. Gemini Nano | AI - Android Developers, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://developer.android.com/ai/gemini-nano>
4. How Generative AI Could Transform Trademark Search Reports - PatentPC, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://patentpc.com/blog/how-generative-ai-could-transform-trademark-searc>

## [h-reports](#)

5. Gemini 3 is available for enterprise | Google Cloud Blog, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://cloud.google.com/blog/products/ai-machine-learning/gemini-3-is-available-for-enterprise>
6. A new era of intelligence with Gemini 3 - Google Blog, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://blog.google/products/gemini/gemini-3/>
7. Gemini 3: Google's Most Powerful LLM - DataCamp, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.datacamp.com/blog/gemini-3>
8. Gemini thinking | Gemini API - Google AI for Developers, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/thinking>
9. Nano Banana & Nano Banana 2 & Nano Banana Pro - Advanced AI Image Generator | Gemini 2.5 Flash & Gemini 3 Pro Image Preview API, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.nano-banana.ai/>
10. Introducing Nano Banana Pro in Slides, Vids, Gemini app, and NotebookLM, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://workspaceupdates.googleblog.com/2025/11/workspace-nano-banana-pro.html>
11. Gemini Nano Multimodal Capabilities on Pixel Phones - Google Store, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://store.google.com/intl/en/ideas/articles/gemini-nano-offline/>
12. Semantic Analysis of Trademark Names Using Large Language Models, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://journal.sah.co.id/index.php/JAILT/article/download/2/2>
13. How Gemini 3 Pro in Box AI unlocks true enterprise reasoning, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://blog.box.com/how-gemini-3-pro-box-ai-unlocks-true-enterprise-reasoning>
14. Google's Gemini 3: Explained - Labellerr, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.labellerr.com/blog/googles-gemini-3-explained/>
15. Gemini 3 Pro Preview - API, Providers, Stats - OpenRouter, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://openrouter.ai/google/gemini-3-pro-preview>
16. Gemini-3 Benchmarkathon - Hugging Face, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://huggingface.co/blog/joelniklaus/gemini-3-benchmarkathon>
17. Launching Gemini 3 Pro on Databricks, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.databricks.com/blog/launching-gemini-3-pro-databricks>
18. 7 Big features that changed Google Search in 2025, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/7-big-features-that-changed-google-search-in-2025/articleshow/125763971.cms>
19. Nano Banana Pro Test: Five Comparisons Won from Infographics to Portraits | by 302.AI, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://medium.com/@302.AI/nano-banana-pro-test-five-comparisons-won-from-infographics-to-portraits-8a267dbaee53>
20. Google Introduces Nano Banana Pro with Grounded, Multimodal Image Synthesis, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.infoq.com/news/2025/12/nano-banana-pro/>
21. CIDER: A Causal Cure for Brand-Obsessed Text-to-Image Models - arXiv, 12月 5,

- 2025にアクセス、<https://arxiv.org/html/2509.15803v1>
22. Automatic Jailbreaking of the Text-to-Image Generative AI Systems - OpenReview, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://openreview.net/pdf/21211e4a35765d0a34cd4c093c99dcae57c5302d.pdf>
23. Generative AI: Navigating intellectual property | Nixon Peabody LLP, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.nixonpeabody.com/insights/articles/2025/09/17/generative-ai-navigating-intellectual-property>
24. Can I Use AI Images for Commercial Use? Everything You Need to Know - GlobalGPT, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.glbapt.com/hub/can-i-use-ai-images-for-commercial-use/>
25. AI-Generated Brands: Can You Trademark AI-Generated Items? - Trademark Agents, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.trademarkagents.com.sg/2025/08/20/ai-generated-brands-can-you-trademark-ai-generated-items/>
26. Nano Banana Pro available for enterprise | Google Cloud Blog, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://cloud.google.com/blog/products/ai-machine-learning/nano-banana-pro-available-for-enterprise>
27. Protecting customers with generative AI indemnification | Google Cloud Blog, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://cloud.google.com/blog/products/ai-machine-learning/protecting-customers-with-generative-ai-indemnification>
28. Android Development with Gemini Nano: Use Cases You Can Build, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.synlabs.io/post/android-development-with-gemini-nano-use-cases-you-can-build-now>
29. Edge AI Showdown: Gemini Nano vs. On-Device Security Models | by Roman Fedyskyi, 12月 5, 2025にアクセス、  
[https://medium.com/@roman\\_fedyskyi/edge-ai-showdown-gemini-nano-vs-on-device-security-models-8ee686d26771](https://medium.com/@roman_fedyskyi/edge-ai-showdown-gemini-nano-vs-on-device-security-models-8ee686d26771)
30. Advancements in Trademark Examination Using AI by the Japan Patent Office (JPO), 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.aiklaw.co.jp/en/whatsnewip/2025/01/22/5268/>
31. Outline of Accelerated Examinations and Accelerated Appeal Examinations for Trademarks | Japan Patent Office, 12月 5, 2025にアクセス、  
[https://www.jpo.go.jp/e/system/trademark/shinsa/outline\\_accelerated\\_trademark.html](https://www.jpo.go.jp/e/system/trademark/shinsa/outline_accelerated_trademark.html)
32. USPTO issues guidance concerning the use of AI tools by parties and practitioners, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.uspto.gov/about-us/news-updates/uspto-issues-guidance-concerning-use-ai-tools-parties-and-practitioners>
33. USPTO's Automated Search Pilot: Through a Biotech Lens | Knobbe Martens - JDSupra, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.jdsupra.com/legalnews/uspto-s-automated-search-pilot-through-52>

14409/

34. Index of AI initiatives in IP offices - WIPO, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.wipo.int/en/web/ai-tools-services/ilos-initiatives>
35. Trade Mark Laws and Regulations The Impact of AI on Trade Mark Law and Practice 2025, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://iclg.com/practice-areas/trade-marks-laws-and-regulations/01-the-impact-of-ai-on-trade-mark-law-and-practice>
36. The WIPO Conversation on Intellectual Property and Frontier Technologies, 12月 5, 2025にアクセス、  
[https://www.wipo.int/en/web/frontier-technologies/frontier\\_conversation](https://www.wipo.int/en/web/frontier-technologies/frontier_conversation)
37. Artificial Intelligence and Intellectual Property - WIPO, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.wipo.int/en/web/frontier-technologies/artificial-intelligence/index>
38. Trademark Risks in the AI Age: Navigating Infringement, Dilution and Genericness, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://www.jdsupra.com/legalnews/trademark-risks-in-the-ai-age-5107146/>
39. Introducing Gemini 2.5 Flash Image, our state-of-the-art image model, 12月 5, 2025にアクセス、  
<https://developers.googleblog.com/en/introducing-gemini-2-5-flash-image/>